

## 1. 課題設定の背景

現在当団体は日本語教室開催、異文化理解講座等の他、様々な外国につながる親子の生活支援を継続して行っている。支援の中で学校に関わる事での相談、病院、その他様々な相談を受けているが中には、毎年同じ時期に同じ相談をしてくる、上の子供と同じ内容を下の子どもでも相談してくるというように、子育てに関係する言葉や手続き手順などをしっかりと学ば自分たちである程度は対処できるようなものも含まれる。また、長年日本に住み続けながらも読み書きができず、子どもと学校とのやり取りができず結果「いいかげんな親」というラベル付けをされ孤立してしまっている親もいる。「読み書きができないと仕事面でも不都合が生じ生活が安定しない。生活が安定しないと読み書きを学ぶ機会が失われ、ついには子供の学習の機会にも影響が出てしまう。」というような悪循環も生じている。支援している家庭の中には母子家庭の方も数名含まれ、2 人目以降を妊娠中離婚することとなり、子どもは認知されず結果、日本国籍を持たないまま生活をしている子供たちもいる。こうした母親たちの中には、子どもが幼く仕事もまともにできず、その結果生活に困窮している家庭もある。慣れない地での子育てで、子どもを育てるには生活環境がけして良いとは言えない家庭もある。このような生活者たちの生活の質の向上のために何が必要かと考え、「該当者が安心して参加でき、学び、仲間とつながることができる場」の整備が必要だと考えこの課題を設定した。

## 2. 実践の内容 「子育て中の外国につながる住民の為のおしゃべり広場・相談処」の開催

## 3. 実践の流れ

### ①日程決め

今回は会場と参加者の利便性を考え当団体が定期的に開催している第二日曜午後の日本語教室終了後の時間で設定

第一回：令和 6 年 1 月 14 日・第二回：令和 6 年 2 月 11 日・第三回：令和 6 年 3 月 10 日

### ②トピック決め 該当家庭への事前聞き取りおよび相談内容をもとに以下の内容を各回の主題とすることとし、各回ゲストスピーカーを招くこととした。

こそだてちゅうの がいこくにつながる おやのための おしゃべり広場

健康・病院 について

ゲスト：鹿屋市看護学校校長 B 氏

### 第一回 令和 6 年 1 月 11 日

#### 健康・病院 について

ゲスト：鹿屋市看護学校校長 B 氏

### 第二回 令和 6 年 2 月 11 日

#### 幼稚園・保育園・小・中・高校・子供と一緒に学ぶ

ゲスト：子育て経験者及び各方面に明るい市役所職員 U 氏

### 第三回 令和 6 年 3 月 10 日

#### 近隣トラブル・家庭内トラブル 在留資格に関わる事

ゲスト：女性弁護士 H 氏

3周知

団体の SNS 上に案内を掲載。日本語教室参加者、支援家庭に案内配布。友人等該当する方への周知依頼。市の国際交流担当者への告知協力依頼。市内の子育てにかかわる公的施設への案内設置依頼。

4打合せ ゲストスピーカーとの打ち合わせの実施。やさしい日本語での進行、わかりやすい内容などを依頼

5当日 ゲストスピーカーを中心に会を進行。 終了後参加者に対し感想など聞き取りを実施。

6事後 参加者へのアンケートの実施

今後取り上げてほしいトピックなどの意見を募る

参加者からの意見をもとに今後の内容を検討し決定する。

▷「第1回 子育て中の外国につながる住民の為のおしゃべり広場・相談処」報告

開催日 令和6年1月14日 参加者 21名(内外国籍家庭住民17名)

参加者出身国 パキスタン・フィリピン・ベトナム・バングラディッシュ

トピック：・いまのきせつのけんこうのはなし ・こんなときはどの病院に行く？

手洗いチェッカー体験なども併せて実施。手で食べる習慣のある国の方は手先の汚れが目に見えて驚いていた。参加者にも体験談を話してもらったり、会終了後個別相談実施し充実した内容だった。

鹿屋市内に、こんなにいろいろな国のいるとは知らなかったという声を頂いた。いろいろな国の人と片言であいさつを交わす参加者の顔に安堵の表情がうかがえた。普段引きこもりがちの方を外に連れ出せたのは良い成果の一つだといえる。

反省：日本語がほぼわからない参加者には難しいところがあったようだ。

机の配置が教室型だったため、参加者同士が顔を見ることができなかった。

対策：次回は机の配置をコ型配置としお互いの顔が見えるようにする。

参加者の発話の機会を促すため、対話形式で進行する。

第1回

2024 ねん 1 がつ 14 にち  
ひる 3:15~4:45

おしゃべりひろば-そうだんどころ

ゲスト：鹿屋市立看護専門学校  
はば みきこ先生

けんこうについての おはなしを  
やさしいほんごで します。

- ・インフルエンザ
- ・コロナウイルス
- ・ふゆに きをつける びょうき とこのびょういんに いく?
- ・こどものびょうき
- ・てあらいチェッカーたいけん などなど

おみやげあります!

全体の様子



手洗いチェッカー



## ▷「第2回 子育て中の外国につながる住民の為のおしゃべり広場・相談処」報告

開催日 令和6年2月11日 参加者 21名 (内外国籍家庭住民19名)

参加者出身国 パキスタン・フィリピン・ベトナム

トピック：子供の就学支援制度について 高校進学とその後の進路について

日本で学校に通う際の手続き 学校内でのPTA活動について

様々な就学支援制度や日本の学校に通う際の手続き等、実際に支援してきた側の目線からと体験した側親たちの目線から様々な話をした。これから子供を通わせる人、これから子供を日本に呼び寄せる人、どのタイミングでどのような手続きがあるのか分かってよかったといていた。また配布した資料を見て、学校内で配布される文章にもルビを売ったり、やさしい日本語で書いたりする配慮が欲しいという意見もあがった。

**反省：** ディスカッション形式で色々な人に話を振っていったが、なかなか話の輪に入れない人もいた。もっとみんなが参加できる工夫が必要だと感じた。

**対策：** 日本語に自信がない人が参加できる体験型の何かを一つは組み込み輪に入りやすい雰囲気作りをする。

(第一回目で実施した手洗いチェッカーのようなもの)

### 4 今後の活動に向けて

今期研修課題の実践の場として3回の開催を予定している「おしゃべりひろば・そうだんどころ」であるが、1月報告書作成段階で第1回を終了した段階で色々な所で話題に上げてもらい、支援の対象である外国につながる住民の中でも話題となっているようである。1~3月の活動を通して4月以降の会の在り方の方向性を決めていきたい。普段なら地域とかかわることがなかった外国につながる住民を表舞台に出せたことは大きな成果の一つといえる。今回表舞台に出て、交流を持った外国につながる住民たちが再び交流を断ち引きこもらないように、より一層多くの子育て中の外国につながる家庭の方々に参加していただけるように、ニーズ把握をきちんと行い、今後参加者たちが「子育ての場」において「互いに協力し」また「自立」して、「家庭環境を整え」「子供を育む」ことができるための助けとなる情報・知識・仲間を得ることができる場を整備・拡充していきたい。

また、我々民間団体だけであると支援できる内容に限りが出てくるので公的機関との連携をもと密にとっていききたい。

### 5 コーディネーターとしての今後

長年草の根活動を続けてきて、地域に住む外国籍住民とのパイプが形成されてきた。

今後は関係機関との連携を強固にしながら地域で暮らす外国籍住民と日本人住民のために日本語教育プログラムをつくりいろいろな国出身の住民がお互いに尊重し協力し合い生活できる社会の実現の為に尽力したい。

今研修に参加して、活動を実践するにあたり、「任せる」ことの必要性を認識することができた。自分の努力だけでは解決できないピースを埋めるリソースを集めるための明確なプログラムの構築とその内容の明示ができるようブラッシュアップしていきたいと思う。